

世田谷区基本構想審議会第2部会（第4回） 議事要旨

【日 時】 平成24年7月3日（火） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】 世田谷区役所第3庁舎3階 ブライトホール

【出席者】

■委 員 松島茂（部会長）、小林正美（副部会長）、永井多恵子、桑島俊彦、永井ふみ、高橋昭彦、村田義則、上野章子（第3部会）、吉川仁（外部学識経験者）、中原秀樹（外部学識経験者） 以上10名

■ 区 小田桐政策企画課長、田中政策研究担当課長、笹部政策経営部副参事、吉田政策経営部副参事、笹本災害対策課長、花房文化・国際課長、梅田スポーツ振興課長、柳原環境計画課長、加藤環境保全課長、竹内環境総合対策室副参事、進藤商業課長、鈴木清掃・リサイクル部事業課長、松村都市計画課長、関根土木計画課長

【議事概要】

1 主な意見

（1）都市デザインについて

- ・かつては、区に都市デザイン室があり、先進的な取り組みが進められていた。当時作られた用賀プロムナードなどは良好な景観を創出し、現在も住みやすさの向上に寄与している。将来を見据え、地域としてデザインを発信する仕組みを再び考える必要がある。
- ・南北交通が弱いのは事実だが、それは東西交通が街道として発展して来た歴史の一側面である。街道としての歴史性を評価し、景観を保全するなど、歴史を尊重し、強みを生かしてゆくといった観点からの検討も必要ではないか。
- ・イベント掲示用の看板や、ごみ集積所の位置など、様々な設備についても、まちの景観づくりという観点から、デザインや配置を考えたほうがよい。
- ・都市デザインという観点を踏まえると、個別の施設単独で検討するのではなく、多面的な文化の諸機能を空間的にまちに如何に配置するのかという観点から考える必要がある。
- ・人々が生活の中で共有する空間の総合的なデザインは、分野横断的に取り組みを進める必要があり、区長直属の組織として都市デザインに関する部署があると望ましい。その際には、必要に応じ、デザイナーなどの専門的な知見も活用する必要がある。

（2）芸術文化について

- ・区内には多数、文化施設があるものの、一部を除けば、ほとんどが貸し館を中心としており、文化発信につながっていない。こうした運用面は課題である。ハード面の整備を進めるだけでなく、運営の方法に加え、運営を担う人を如何に育てるかなどについても今後検討する必要がある。
- ・人口に比較し、図書館が少ない。新規建設が困難であっても、区内の各行政窓口で本を受け取れるサービスを展開するなど、区民にとって本が身近にある環境を作るべきである。
- ・ビジネス図書館のような、ビジネスで本を置いているところが運営し、カフェと一緒に併設することによって、少しゆったりその場所で本を選別することができたら良い。
- ・区内に文化人がただ住んでいるだけではなく、彼らに積極的に参加してもらうことが住

であり、人的資源の有効活用に向け、世田谷に住む多数の文化人の交流をコーディネートする機能が必要である。

- ・地域が文化を育てる面もある。区民が主体となり生活に身近な文化活動を行う場所を創出する必要がある。そうした場があれば、災害の際にも役立つだろう。

(3) 環境・エネルギーについて

- ・日本の都市部では、とりわけ集中豪雨の対応能力が弱く、危険であるため、区にとっては、地球温暖化が最大の問題である。
- ・環境問題の解決に向けて、省エネから小エネへと、自然環境との関係のあり方も含めた、ライフスタイルそのものの変革が必要である。ライフスタイルの変革に向けては、教育が重要なポイントとなる。
- ・近年、公衆電話が消え、携帯電話が普及するなど、便利さを求め、公共財が消え、私財が増えることにより、消費エネルギーが増大している。また、公共財の減少は副次的に別の問題も引き起こしている。例えば、公衆電話の灯りは犯罪を防ぐ役目も果たしていたため、公衆電話の減少が治安悪化につながっている面もある。
- ・エネルギーの観点から、地域のコミュニティを再現できる可能性もある。例えば、教育とエネルギーの連携を考え、小学校を地域のエネルギー施策の拠点とすることも考えられる。
- ・地域の中で資源やエネルギーなどが循環するようなシステムを構築し、その中で、地域の人々が、子供達に暮らしぶりやライフスタイルを伝えてゆければ望ましい。
- ・商店街や公共施設を拠点としたクールシェアを導入することも考えられる。省エネだけでなく、高齢者の孤独死防止にもつながり、また、商店にとっても顧客が少ない暑い昼下がりの時間帯に人が来てくれるため、メリットがある。
- ・区内大学も含めて、新しい環境のベンチャー、技術を開発したり、奨励金を出したりして、若い人たちの新しい起業になったり、エネルギー・環境の取り組みをやるのはブランドになるし、産業的に潤うかというのはチャレンジングになると思う。

(4) 防災について

- ・有事の際には、商店街が地域の拠点として有効に機能するかが重要である。区の商店街は組織が弱く、防災隣組などはほとんど機能していないため、日常活動の中で連携をとるような仕組みをつくらなくてはいけない。
- ・被災直後にどこに避難したらよいのかを考える際などに、土地勘の有無が生死を分ける。歩いて楽しいまちづくりの進展は、区民の土地勘の向上にもつながるため、防災という観点からも重要である。
- ・災害時に、区内の大学の学生などの若い力の果たす役割は大きい。そのため、有事の際にボランティアをしたい人が集まる場所を設定しておくなど、平時から若者と地域のコネクションづくりに取り組む必要がある。

2 その他

- ・次回は第2部会の総括的な議論を行う。また、世田谷区スポーツ振興審議会副会長で日本女子体育大学の石崎朔子教授を招聘する。